

FAX送信先
【福岡県立社会教育総合センター研修・情報室宛】

092-947-8029

中国・四国・九州地区 生涯教育実践研究交流会第32回大会 【参加申込書】

※提出期限：平成25年5月10日(金)

| | | | | | |
|------|-------|------|-----|----|-----|
| ふりがな | | | | 性別 | 男・女 |
| 氏名 | | | | 年齢 | 歳 |
| 所属 | | | | | |
| 職名 | | | | | |
| 連絡先 | 自宅・職場 | 電話番号 | () | | |
| 住所 | 〒 | | | | |

*今後、継続して案内を希望の方は自宅の住所をお書き下さい。(名簿には掲載しません)

大会の出欠等 ※希望する事項に○を付けてください。

| | 前日 5月17日(金) | 1日目 5月18日(土) | 2日目 5月19日(日) |
|-----------------------------------|------------------------|--------------------------------------|--------------|
| 大会参加(参加費【1,500円】 但し学生【1,000円】) | | 出席・欠席 | 出席・欠席 |
| 朝食希望【380円】 | | 有・無 | 有・無 |
| 昼食希望【590円】 | | 有・無 | 有・無 |
| 情報交換会 & 第32回大会交流会 | 出席・欠席 情報交換会【2,000円】 | 出席・欠席 交流会【3,500円】 但し学生【2,000円】 | |
| 宿泊希望【120円】(1泊2泊ともに) | 有・無 | 有・無 | |

*個人情報は本大会に関する以外での目的では使用いたしません。
*複数名で申込される方は、こちらをコピーしてお使い下さい。

■留意事項

- ①大会参加費は一律(1日、2日参加とも)1,500円です。
- ②タオル・歯ブラシ等、身の回りの品はご持参ください。
石けん・シャンプーは用意しております。
- ③ご希望の方は、17日(金)から同センターに宿泊できます。
- ④17日(金)から宿泊される方々を中心に情報交換会を実施します。(会費2,000円)

※必要事項を記入の上、FAX(092-947-8029)でお申し込みください。
申込は、「ふくおか社会教育ネットワーク」
(<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/>)からもできます。

■交通案内



●JR九州をご利用の場合：篠栗線/篠栗駅下車徒歩25分・タクシー5分
●西鉄バスを利用の場合：福岡→福間・重塚・田川線/日の浦口下車徒歩5分
●自動車を利用の場合：福岡インターから10分・福岡空港から30分

問い合わせ先



福岡県立社会教育総合センター 研修・情報室
〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町金出3350-2
TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029

生涯教育・生涯学習の実践が集う

中国・四国・九州地区

生涯教育 第32回 実践研究交流会

日時

平成25年 5月18日(土)・19日(日)
〔情報交換会 5月17日(金)〕

場所

福岡県立社会教育総合センター
(福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2)
TEL/092-947-3512 FAX/092-947-8029

日程・プログラム

| 5.17 FRI | 5.18 SAT | 5.19 SUN |
|-------------|---|--|
| 19:00 情報交換会 | 9:30 受付 | 8:30 受付 |
| 20:00 実行委員会 | 10:15 開会式 | 9:00 特別企画 インタビュー・ダイアログ 1部「～幼児期の教育プログラムについて～」 テーマ「『鍛える』幼稚園・保育園に問う。 ～なぜ幼児鍛錬なのか?～」 2部「～高齢者の社会参画を考える～」 テーマ「高齢研究者に問う。2020年の 『高齢者爆発』をどう回避すべきか?」 |
| | 10:45 実践発表① | 11:30 総括 閉会式 |
| | 12:30 昼食 | 12:00 昼食 |
| | 13:00 受付 | |
| | 13:30 実践発表② | |
| | 16:15 | |
| 16:30 移動 | 17:00 特別報告 報告者 三浦清一郎 「健康寿命を延ばす」 「暮らしの老年学の原理と方法」 フリータイム | |
| | 20:00 第32回大会交流会 全体会 県別 | |

主催 福岡県教育委員会 日本生涯教育学会九州支部
主管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第32回大会実行委員会
福岡県立社会教育総合センター

少子高齢社会の未来

第32回大会も各県の実行委員さんのご尽力により素晴らしい実践を集めていただきました。心から感謝とお礼を申し上げます。
近年は、本大会参加者の帰郷後の活動が花ひらき、継続、新規、再開も含め長崎、佐賀、大分、山口、広島、岡山、島根、鳥取、愛媛県で交流会が開催され、福岡県実行委員会として共催、後援、協賛等の関わりを持たせていただき参加できましたことを大変嬉しく思っています。お世話になりました。

我が国では高齢者人口の増加と共に医療費も伸びています。中でも後期高齢者の医療費の伸びは著しく、平成22年度の後期高齢者の医療費は12兆7千億円で、一人当たり90万円です。一日当たりに直すと何と348億円の医療費になります。平成20年度が11兆4千億円、21年度が12兆円ですから伸びの速さと額の高さが分かります。

今年から団塊の世代が高齢者の仲間入りをしました。あつという間に後期高齢者になります。高齢者扶養は国の重要課題ですが高齢者が健康で如何に生きるかも国民一人ひとりの大きな課題です。本大会で語り継がれている「活動するから元気になる」が今日の超高齢社会を救うキーワードになることは間違いないことです。

一方、少子化の中「過保護・放任」で育ててきた子ども達の体力・耐性の低下、規範意識の低下や基本的な生活習慣の未熟さなどは大きな社会問題になっています。その原因と責任を辿ればその親を育てた私達高齢者の子育てまで遡りそうです。

今回の大会では、特別企画としては大会始まって以来初めて「就学前」の子ども達に視点をあて、幼稚園・保育園での実践を取り上げました。「三つ子の魂百まで」「隗より始めよ」の実践は小学校・中学校へと繋がっているのでしょうか。もう一つは、高齢社会に影響を与える活動を続けられているお二人に「何があなたを動かしているのか」を中心にインタビューをしていきます。

32回大会は「少子高齢社会の未来」について語り合っていたければ幸いです。

代表世話人 森本 精造

5/17 (金)

情報交換会 19:00~

前日から宿泊されている方々と各県の実行委員会の皆さんとの情報交換会の場を設けました。一緒に食事をとりながら、心ゆくまで、ごゆっくり御歓談ください。

5/18 (土)

開会式 10:15~10:45

午前 実践発表① 10:45~12:30

2階 第1会場
4階 研修室

- 幼稚園・家庭・地域をつなぐオヤジの会の挑戦—やりたいことを形にするプロジェクト・チームのカー
- 困難な状況にある青少年を対象とした体験学習プログラムの開発—児童相談所・児童養護施設・里親関係者との連携—
- 鞍手竜徳高校の「子育てサロン」の複合機能—学校と社会教育と地域を結べばこんなことができる—

田中 一臣 (鳥取県湯梨浜町)

宮本 慎也 (山口県)

荒牧 直子 (福岡県宮若市)

2階 自由研修室

- 手作り紙芝居から繋ぎ始めた地域活動の輪と和
- 子ども・大人の居場所を次世代に繋ぐ地域力
- 「地域の子どもは地域で育てる」—新しい学校運営の創造—

木村 泰代 (佐賀県佐賀市)

木下 光子 貫近 孝子 (鳥取県米子市)

三島 智彰 (長崎県佐世保市)

4階 視聴覚室

- 地域ぐるみの「防災教育キャンプ」—企画・運営の論理と方法—
- 四季折々の溪谷に神楽舞う里—住んでよし、訪ねてよしの谷づくり—
- 地域活性化を食に見いだした団塊世代の村づくり—大山「手づくり豆腐サミット」による住民交流—

野島 弘宣 (熊本県上天草市)

澤田 定成 (島根県飯南町)

谷尾 良 (鳥取県大山町)

4階 大研修室

- 全地域網羅の「夏休みフリー塾」—つなげよう地域と子ども—
- 「市村自然塾九州」—宿泊共同体験で培う豊かな心—
- 日置市「おひさま」運動—「風格ある教育」を目指す実践4項目—

美咲美佐子 (岡山県岡山市)

合谷正一郎 黒田隆太郎 (佐賀県鳥栖市)

山田 哲夫 (鹿児島県日置市)

わたしのまちのポスター展

あなたのまちの「村おこし」や「まちづくり」また「人づくり」のイベントのポスター等で、あなたのまちの故郷自慢を広く全国にアピールしてみませんか？

- 参加資格 誰でも出品できます。
- 出品数 1イベント1点
- 提出方法 大会当日受付にお申し出下さい。
- 留意事項 ポスター・チラシに限ります。展示品は返却できませんので予めご了承下さい。

午後 実践発表② 13:30~16:15

2階 第1会場
4階 研修室

- 夢街道「岩国往来」の復元を起点とした地域活性化プロジェクト—協働が蘇らせた歴史に埋もれた「岩国往来」—
- 子どもチャレンジ塾
- 地域資源「白木湧水」を活用したコミュニティ活性化事業の波及効果
- 「ふるさとづくり」とは何か、どうしたのか、どうなったのか—大田ふるさとづくり協議会の挑戦—

藤森 勝彦 (山口県岩国市)

幾田 奉文 (広島県東広島市)

山口 素子 (福岡県朝倉市)

野上美喜子 (大分県杵築市)

2階 自由研修室

- 工場見学プログラムによるキャリア教育とリサイクル・エコ教育の実践—(株)久保田オートパーツの「企業力」を生かした地域貢献—
- 「連塾」塾生による小学生のためのキャリア教育体験講座—「なりたい自分」を見つけよう—
- 学校支援で育てる教育の協働システムと地域の活力—「なかつスクプロジェクト山国版」—
- 「美里フットパス」の戦略と効果

小川 歩 (宮崎県宮崎市)

角田みどり (岡山県岡山市)

梶原 豊美 (大分県中津市)

濱田 孝正 (熊本県美里町)

4階 視聴覚室

- 由布市庄内町6小学校集団宿泊指導の教育効果—ここのえチャレンジスクールの論理と方法—
- 地域資源を活かした花と歴史と安らぎの郷づくり—過疎に立ち向かう課題解決型地域づくり組織の協働戦略—
- 学校と地域がとけあう学びの創造—学社融合10年の歩みを生かして—
- どうなるこの町、どうするこの街、あなたが主役!—データで検証する大蔵流まちづくり—

山崎 充 (大分県)

柴田 俊彦 (山口県下関市)

遠藤 敏朗 (愛媛県松山市)

芳賀 茂木 (福岡県北九州市)

4階 大研修室

- 地域の未来は公民館と地域商社がつくる
- 不登校クラス・ステップアップスクール当仁
- 手づくりふるさと紙芝居
- 歌で結び、歌で創る「人生の再生工場」—合唱愛好グループの生き甲斐づくりと地域連帯への貢献—

大庭 完 岩井 賢朗 (島根県益田市)

内田富美子 (福岡県福岡市)

末岡美由紀 (山口県光市)

海老原郁子 (鹿児島県鹿児島市)

特別報告 16:30~17:00

「健康寿命を延ばす」—暮らしの老年学の原理と方法— 報告者 三浦清一郎

第32回大会交流会 17:30~20:00

事例の発表者の方や、参加者の皆さん、各県の実行委員会の皆さんが一堂に集まり、交流を深める場を設けています。それぞれの実践について、語り合いませんか？きっと次の日からの実践のヒントが見つかります。多数の参加をお待ちしています。

5/19 (日)

特別企画 インタビュー・ダイアログ 9:00~11:30

1部 ~幼児期の教育プログラムについて~ 下記登壇者等の役職名は、平成25年3月現在のものです。

テーマ 「「鍛える」幼稚園・保育園に問う。—今なぜ幼児鍛錬なのか?—」

登壇者 浜田 満明 (島根県出雲市立 高浜幼稚園 園長)
矢野やす子 (鹿児島県志布志市 伊崎田保育園 園長)

コーディネーター 大島 まな (九州女子大学 准教授)

2部 ~高齢者の社会参画を考える~ 下記登壇者等の役職名は、平成25年3月現在のものです。

テーマ 「高齢研究者に問う。2020年の「高齢者爆発」をどう回避すべきか?」

登壇者 三浦清一郎 (月刊生涯学習通信「風の便り」 編集・発行人)
瀬沼 克彰 (桜美林大学 名誉教授)

コーディネーター 森本 精造 (NPO法人幼老共生まちづくり支援協会 理事長)

総括閉会式 11:30~12:00

「おらがまちの名物自慢」

あなたのまちの名物は何ですか？
地酒・焼酎・つけもの・海産物……。
毎回、参加者がお国自慢の品々を持ち寄り、その数なんと、約100個。

「競り市」での競売もよし、「懇親会・2次会」での酒肴でもよし。
ご持参くださる方は、大会当日、受付にて、「所属・氏名」「物産品の品名」「セールスポイント」をご記入の上、ご提出下さい。

